

滋賀県立農業大学校シラバス 401

講座名	施設園芸総論	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	--------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☐ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 花き栽培に関する基礎（種類と分類、生理生態、開花調節技術）
2. 施設野菜栽培の利点、栽培管理上の特徴・注意点

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	花きの種類・品種と名前（自然分類、園芸的分類、品種と品種の分類） 花きの成長・開花と環境（花きの一生と成長・開花、開花調節の技術）
第2回（4時間）	花きの繁殖方法（種子繁殖、栄養繁殖の方法） 花きの品質と品質保持（切り花、鉢ものの品質と品質保持技術）
第3回（4時間）	施設野菜栽培の目的と利点、施設の種類と装備、 施設装備と野菜経営、施設の土壌管理、土耕と養液栽培
第4回（4時間）	施設における栽培環境とその特徴 温度・湿度・CO2管理の考え方、積算温度

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農文協 草花栽培の基礎
- 自作プリント（ノート形式のプリント）

到達目標

- 花きの種類と分類方法を理解できる
- 草花きの開花特性に応じた開花調節技術を理解できる。
- 花きの品質評価の方法と品質保持技術を理解できる。
- 施設で野菜栽培を行うメリット、デメリットをふまえ、施設栽培の目的を理解する。
- 積算温度に基づいて野菜の生育を予測できることを理解する。
- 施設内における栽培環境の特徴をつかみ、温度管理等の感覚が身に着く。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 402

講座名	キュウリ栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

キュウリに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	キュウリの来歴、性状、経営、栽培の流れ
第2回（4時間）	キュウリのほ場管理、定植、栽培管理
第3回（4時間）	キュウリの生育診断と草勢管理
第4回（4時間）	キュウリの収穫、出荷調整、生理障害、病虫害
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 農業技術体系（キュウリ編）
- 環境こだわり農業営農技術指針
- 農林水産省統計資料
- 滋賀県農業経営ハンドブック

到達目標

- キュウリの性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。
- キュウリの生理生態について基礎的な知識が身についている。
- キュウリの栽培についての基礎的な知識や栽培技術が身についている。
- キュウリの産地形成や経営について理解ができている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- ☐記述テスト ☐出欠状況 ☐提出物の有無と内容
- ☐授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 403

講座名	トマト栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
トマトに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、栽培システム、経営上の特性など

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	トマトの種類、生理生態など
第２回（４時間）	トマトの作型、生育を制御する環境要因など
第３回（４時間）	トマトの病害虫・生理障害など
第４回（４時間）	トマトの流通、産地、および栽培施設など
第５回（４時間）	
第６回（４時間）	
第７回（４時間）	
第８回（４時間）	
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○農業技術体系（野菜編２トマト） ○滋賀県農業経営ハンドブック ○新野菜づくりの実際果菜Ⅱ ○夏秋トマト栽培マニュアル ○トマトの需給動向 など	

到達目標	
○ トマトの生理生態について基礎的な知識が身についている	
○ トマト栽培について基礎的な知識や栽培技術が身についている	
○ トマトの作型や経営について理解ができている	

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 提出物の有無と内容 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未滿を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未滿で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 404

講座名	イチゴ栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有 無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農		
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

イチゴに関する来歴、形状、特性、品種、作型、栽培管理

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	イチゴの起源、形態、植物体の各器官について
第2回（4時間）	イチゴのライフサイクル、作型、促成栽培技術について
第3回（4時間）	滋賀県におけるイチゴ生産について
第4回（4時間）	イチゴの受粉昆虫、病虫害防除について
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

以下の書籍をもとに、資料を作成

- 『農業技術大系 野菜編 第3巻 イチゴ』
- 『農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎』
- 『農学基礎セミナー 新版 野菜栽培の基礎』
- 『新野菜づくりの実際 第2版 果菜Ⅱ（ウリ科・イチゴ・オクラ）』
- イチゴ新品種「みおしずく（滋賀S B 2号）」栽培管理指針（滋賀県）

到達目標

- イチゴの生理生態について、基礎的な知識が身に付いている。
- イチゴ栽培について、基礎的な知識が身に付いている。
- 滋賀県におけるイチゴ栽培様式について理解ができている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 405

講座名	軟弱野菜栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

ホウレンソウ、シュンギク、コマツナ他に関する各論、来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	軟弱野菜の概要（種類、県内外の産地、生産量、作型等）
第2回（4時間）	軟弱野菜各種の生理生態、栽培管理技術および病虫害雑草防除技術
第3回（4時間）	生産現場での栽培状況の見学および経営の概要を学ぶ
第4回（4時間）	軟弱野菜経営の特徴と経営計画策定演習
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○自作資料

到達目標

- 軟弱野菜の性状や生理生態等についての基礎的な知識が身についている。
- 軟弱野菜の栽培技術について基礎的な知識が身についている。
- 軟弱野菜の経営についての基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 406

講座名	ナス栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

ナスに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	ナスの種類、歴史、栄養価、用途、産地と生産量、作型等
第2回（4時間）	ナスの生理生態
第3回（4時間）	ナスの栽培技術および現地見学（近江八幡市東川町）
第4回（4時間）	ナスの病虫害防除および経営
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- まるごと楽しむナス百科
- 農業技術体系（ナス編）
- 環境こだわり農業営農技術指針および農林水産省統計資料
- 滋賀県農業経営ハンドブック

到達目標

- ナスの性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。
- ナスの生理生態について基礎的な知識が身についている。
- ナスの栽培についての基礎的な知識や栽培技術が身についている。
- ナスの産地形成や経営について理解ができている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 407

講座名	メロン栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年	就農		
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験	実習	☒ 見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

メロンに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	メロンの伝播と果実の特徴、県内のメロン栽培の概要
第2回（4時間）	基本的な栽培管理（各生育ステージの管理等）
第3回（4時間）	現地見学
第4回（4時間）	施肥管理と生理障害・病虫害防除
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

各授業内容に応じた資料を講師が作成。

到達目標

メロンの歴史や特徴、基本的な栽培管理技術や病虫害防除について理解を深めることで、今後の営農に役立てる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 408

講座名	土地利用型園芸Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ・水田作野菜の栽培・作付体系（土地利用型作物と組み合わせた土地利用体系）
- ・水田作露地野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性
- ・排水対策の重要性とその手法
- ・キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、タマネギ、白ネギ、小菊に関する栽培・経営各論

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	(講義)水田で栽培できる野菜の種類、水田での栽培における留意点、露地水田野菜を導入する農業経営について
第2回(4時間)	(講義)排水対策、作付体系（土地利用体系、ほ場のローテーション）加工・業務用途向け栽培の特徴について
第3回(4時間)	(講義)各品目の花芽分化特性や育苗技術について、キャベツ、ブロッコリー・ハクサイの栽培について
第4回(4時間)	(講義)タマネギ、白ネギ、小菊の栽培について (見学)土地利用型大規模経営体における収穫機を用いたキャベツ収穫作業（講義時間が確保でき、見学先の許可が得られた場合に実施）

使用教科書（テキスト）

新野菜づくりの実際（葉菜Ⅰ、根茎菜Ⅱ）

自作資料および農水省HP、農畜産業振興機構HP、農業機械メーカーHPを使用

到達目標

土地利用型経営に水田野菜を導入する意味を考える。
消費者・流通・生産者それぞれの立場から露地水田野菜各品目のイメージをとらえ、経営形態や経営戦略を考える。
家計消費向け栽培と加工・業務用向け栽培の違いを理解する。
各品目の生理生態に基づき、具体的な栽培方法を理解する。
排水対策の必要性を理解し、排水対策技術の基本を身に着ける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 208

講座名	土地利用型園芸Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
水田野菜作経営のイメージ、水田作土地利用体系への野菜導入パターン、排水対策、加工・業務用野菜栽培の特性 ダイコン、カブ、ニンジン、ネギ、タマネギ等に関する各論（根菜・葉菜）

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1回（4時間）	ダイコン等
第2回（4時間）	カブ・ニンジン等
第3回（4時間）	タマネギ等
第4回（4時間）	ネギ等
	※各品目において、それぞれ水田野菜作経営のイメージ、土地利用パターン・排水対策、加工業務用野菜栽培の特性に関するポイントを説明

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
自作資料：水田作経営を取り巻く情勢（農水省統計データ）、水田野菜の特徴から経営をイメージする、排水の基本知識と排水促進、各品目の性状および作型、栽培管理方法、病虫害防除、機械化の方向性、経営上の特性 など

到達目標
水田での露地野菜栽培における、栽培管理の基本的な知識、注意点を習得する。また、水田野菜部門を導入した経営の特徴や、メリット、デメリットを整理し、水田野菜作経営についてのイメージを描くことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 410

講座名	園芸用施設	担当	大学教員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年	2年	就農	
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 園芸用施設の種類と構造
 - (1)施設園芸の特徴
 - (2)温室の種類と構造
 - (3)被覆資材、保温資材の種類と特性
2. 温室の環境と制御
 - (1)温室の光環境と制御
 - (2)温室の温度環境と制御
 - (3)温室の湿度環境と制御
 - (4)温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御
 - (5)複合環境制御
 - (6)養液栽培の種類と特徴

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	施設園芸の特徴，日本の施設園芸の状況 温室、被覆資材の種類と構造
第2回（4時間）	温室の光環境と制御，温室の温度環境と制御
第3回（4時間）	温室の炭酸ガス濃度の特徴と制御
第4回（4時間）	換気の種類と特徴，複合環境制御、養液栽培の種類と特徴
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
講義中にプリント資料を適宜配布	

到達目標

- 園芸施設の種類と特徴を理解する。
- 温室内の環境の特徴を理解する。
- 温室内環境の制御方法を理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 講義内で行う確認小テスト（13回） ○期末テスト

評価基準

講義内で行う確認小テスト（13回，合計50点）と期末テスト（50点）で評価する（合計100点）。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 411

講座名	少量土壌培地耕システム	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	-------------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 ☒ 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
・ 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の内容（構造・システムの構成、栽培品目・コスト等）について理解する。 ・ 少量土壌培地耕 栽培ベンチ作成実習

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1回（4時間）	少量土壌培地耕システムの概要 栽培品目と普及状況（野菜）
第2回（4時間）	少量土壌培地耕システムの構成と機器 給液量、排液量の確認方法と重要性 システムに必要なポンプ能力の求め方
第3回（4時間）	少量土壌培地耕用ベンチの作成実習
第4回（4時間）	少量土壌培地耕システムの概要、栽培品目（花）
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○自作資料	
○農技センター資料	
○農業技術体系 等	

到達目標
☐ 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の構造、栽培品目および栽培方法について理解できる。 ☐ 少量土壌培地耕の利点、注意点を理解する。 ☐ 少量土壌培地耕システムを構成する各機器についての知識を習得する。 ☐ ベンチ組み立てに必要な、鉛直、水平、直角を意識した施工方法を身に付けることができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 412

講座名	植物保護	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年	☐ 2年	☐ 就農	
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

作物保護の重要性，病気の基礎知識，伝染方法，病害の原因と診断，病害の発生と環境条件，害虫の生態、防除対策、作物保護の手段

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	作物保護の重要性、植物病理学、応用昆虫学とは
第2回（4時間）	病害の伝染・病害の発生と環境条件病害の発生と環境条件・病害の診断作物保護の手段
第3回（4時間）	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性 主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第4回（4時間）	基本的な病虫害管理手法と総合的病虫害防除（IPM）の概念

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・自作資料（参考図書：「植物防疫講座（病害、害虫・有害動物編）」日本植物防疫協会、「現代応用昆虫学」朝倉書店 他）
- ・減農薬害虫防除DVD（農文協）

到達目標

- 作物保護の重要性について理解することができる
- 各種作物の病害、虫害の種類、生態に理解できる
- 病虫害の発生生態と環境条件，病虫害の診断について理解することができる
- 作物保護のさまざまな手段について理解することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は，講義を主とする科目であることから，評価は筆記試験やレポート等の成績のほか，出席日数，受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により，50点以上を合格とし，50点未満を不合格とする。なお，成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について，本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし，追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 413

講座名	野菜経営	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

野菜経営のための基礎知識
（経営の三要素、売上、経費、経営安定の方法、経営計画・戦略策定）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	全国の野菜生産の状況について 全国の野菜市場流通状況について 滋賀県の野菜生産の状況について 滋賀県の野菜流通状況について
第2回（4時間）	経営の構成要素について 計画策定におけるコンセプトの重要性について マーケティング戦略の基礎、SWOT分析
第3回（4時間）	野菜農家の視察（実際の野菜経営を知る）
第4回（4時間）	野菜経営計画書の作成（演習）および発表

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作パワーポイント資料

到達目標

野菜を部門とした農業経営を営むにあたり、成功している農業経営とはどのような戦略を立てているのかを知り、戦略の基礎となる考え方や、ツールの使い方を、演習を通じて習得することを目指す。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 414

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
- ② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～8回 (32時間)	1年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに、発表討議を行う。

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○ 授業態度 ○ 出席日数

評価基準

本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 415

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	2年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに技術・経営について検討を加え、発表力の向上を図る。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 416

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	448時間（14単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～112回 （448時間）	1年次において、自身が定めた専攻で、農作物の基本技術を習得する。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 417

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	544時間（17単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～136回 （544時間）	2年次において、自らの経営計画に基づくプロジェクトの実施および取りまとめを行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 418

講座名	卒業論文	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	160時間（5単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① プロジェクトの内容の検討と課題の決定
- ② 課題解決し、プロジェクトとしてとりまとめる
- ③ 報告会での発表と論文として発刊する

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～40回 (160時間)	内容の検討、課題の決定、とりまとめと発表

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入
なし

到達目標

課題解決に向けた取り組みを分かりやすく発表することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○授業態度 ○出席日数

評価基準

本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。